

「だんご3兄弟」

校長 二瓶 晃一

弟想いの 長男

兄さん想いの 三男

自分が一番 次男 次男

だんご3兄弟

これは、今年卒業するみなさんのほとんどが生まれた1999年に流行った、「だんご3兄弟」という曲である。NHK教育テレビの番組で人気に火が付き、CD発売3日で出荷枚数が250万枚あったそうだ。当時は、テレビやラジオなど様々な場面でこの曲を聴くことができた。子供ばかりでなく大人も聴いて楽しくなり、思わず口ずさみたくなる曲だった。

この年は、「ガングロ」という言葉が流行った。日焼けサロンで顔を焼き独特の化粧をし、靴底10センチから15センチの靴を履いている女の子がいたるところで見られた。モデルとなったのは、今年引退を宣言した安室奈美恵で、人気の絶頂の中にあった。

また、バブル経済が崩壊し、金融不安や不良債権問題が深刻化した。経済もマイナス成長となり、なくなることなど考えられなかった、山一証券が自主廃業を決めていた。

そんな時に流行ったのが「だんご3兄弟」である。

串だんごを兄弟にみたて、一度聴いただけで覚えられそうな簡単な歌詞である。しかしその中に、兄弟での人間関係の本質を突いているところがある。それが右記の歌詞である。3人兄弟の場合この歌詞のような人間関係ができてしまうのではないか。串だんごは3つあって始めてだんごとして成り立つ。嫌だからといって2つとか1つにはできない。兄弟同士が嫌だからといって縁を切ることができないように。

学校を例にとれば、3年生と1年生は上手くやって行けるが、2年生とは折り合いが悪くなってしまう、という話をよく聞く。3年生からすれば年の近い2年生より、離れている1年生の方が、弟分として面倒を見やすいからなのかもしれない。だからといって2年生を取り換えてしまうわけにはいかない。

私は、この歌を聴くことで当時の子供も大人も無意識のうちに、愛情や対立などの様々な人間関係を感じ取ることができたのだと思う。そして、時代が不景気で社会が停滞していたからこそ、「だんご3兄弟」に切っても切れない結びつきを求めたのだ。

卒業生のみなさん、本校での3年間で、笑いあり悲しみありの様々な人間関係があったことでしょう。しかし、どんなときでもクラスや学年という単位からは離れることはできなかったのではないか。縁あって共に過ごした先輩や後輩、そしてクラスメートを今後も大切にしてください。

